提案

SALON de MERCY ～商店街食堂～～

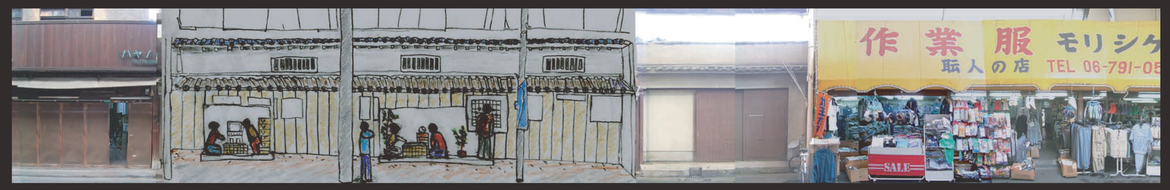
商店街に訪れる人達が買い物をするだけでなく、滞在できるような場所を作る。通り過ぎる商店街から集える商店街への転換を促すような店、「本通商店街」というお店の休憩室という感覚をあたえる。また、買い物をきっかけにして、お店の人との会話の機会が生まれることを狙う。

食べ歩きのできる店舗のが集まる場所近くに立地しているSALON de MERCYを利用する。元々喫茶店として利用されており、飲食するのに適していると考える。

邸宅を利用して、遊びを通じた世代交流を

商店街の中にカルチャースクールを！平野には教室など人の集まるの場があるが、年齢層別に活動していることが多い。そこで、たとえばお年寄りと子供たちが交流できる囲碁や将棋のカルチャースクールを作る。お年寄りが伝統のある将棋や囲碁を教えることで、ゲームを通じてお年寄りと子供の日常会話がうまれ、人の賑わい、触れあいを創造していく。そうした会話を通じて歴史や文化が伝承されていくのではと考える。

広い間口を持ち、畳の部屋のある町家を利用する。人が住んでいつでも居る場所として、集まる場としての性質を高める。軒先での活動の場もつくり、道行く人にその眺めが見えるようにする。将棋、囲碁大会のようなイベントも開き、こどもたちにとっての平野商店街への愛着をはぐくむ。



空き店舗を利用したチャレンジショップ

商店街に若い風が入り込むのはお店の人も望んでいるし、商店街が生き続けていくのに必要である。近くに服飾専門学校もある。旧朝日新聞販売所利用によるカフェバーが拠点となって、若者向けのお店が増えていくことも考えられる。若者が店を持つチャンスとしての空き店舗の有効活用を提案する。現在、商店街での出店には、賃料や商店会費といった費用面のハードルが高く、若者が出店しやすいように短期間に安く貸せるシステムが必要である。平野の商店街のアピールすることを担保にまちづくりに興味のある若物に店舗を貸してみては？平野に若い世代が根付くかもしれない。

近代建築をカフェバーに

キーワードは酒。夕方から始まり、夜に明かりを灯す。歴史ある建物をカフェバーにすることで若者を呼び込み、お年寄りと若者が共に居る場を提供する。

このカフェバーをきっかけに、夜に開くお店が増え、夜の商店街がが発達していく。昼にも営業することで、夜のお客さんを昼の商店街に引き込む。昼の商店街と夜の商店街の交流がコラボレーションする。

明治２２竣工の近代建築で、西洋的な雰囲気のある旧朝日新聞販売所を利用する。

「遊びに来てください」

おばあちゃんの家に遊びにいくような感覚の託児所をつくる。地域の人々に世話をしてもらう。団塊の世代に子供を預けることで安心感がある。団塊の世代を中心とした定年後の人たちが活躍できる場を提供し、経験という財産を有効活用することができる。

古い町家を用いることで、こどもはおうちの中ですごす環境が得られる。また、角地に立地しており、側面部の路地でこどもが遊ぶことができる。

人の付き合いを目指すきっかけ軸。
幅広く軸にまたがるような提案が